

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0153680046		
法人名	社会福祉法人 緑星の里		
事業所名	グループホーム ハーモニー		
所在地	苫小牧市字植苗51番地の156		
自己評価作成日	平成23年3月10日	評価結果市町村受理日	平成23年5月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境のもと、家庭的な雰囲気の中で、個々のペースや思いに寄り添い、安心して気持ちでお過ごし頂けるよう努めております。日々の生活においては、思い思いのスタイルで、穏やかな暮らしに向けた関わりを心掛け、季節に応じた行事や周辺への散歩、売店での買い物、畑作りや収穫、収穫した食材や旬の食材を活かした食事を提供するなど、日常にある刺激から、楽しみや喜びを感じていただけるように努めております。また、隣接する施設の専門職(医師や看護師、リハビリスタッフなど)から、必要時には助言を受け、よりよい生活が送れるよう連携を図っております。運営主体である、緑星の里では、知的障害者施設や高齢者施設を運営しており、ホームで行なう行事のほか、法人施設で行なう行事への参加を行い、様々な楽しみ場の提供に努めております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0153680046&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年3月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、苫小牧市郊外の自然環境に恵まれた広大な敷地に、社会福祉法人が授産施設や特養ホームなど、多数の介護福祉事業を展開する「緑星の里」の一翼を担って運営されています。法人全体の「共に支え合う」理念のもとに利用者は、職員の明るく親しみのあるケアサービスを受け、四季の変化を楽しみながら、人間らしく、ゆったりとした生活を過ごしています。また、敷地内他施設との連携によって、各種行事への参加や利用者の他施設訪問など、変化に富んだ生活を楽しんでおり、複数の関連施設が一体となって存在することが、ホームのスムーズな運営に寄与しています。ホームは、平成14年の早い時期に開設した施設ですが、玄関や居間は、ゆったりとしたスペースと広いガラス面によって明るさと見通しの良さがあり、居室内にはクローゼットや洗面台が備え付けられ、建物内部の管理も行き届いて、利用者にとって暮らしやすい住み家となっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は作られているが、職員への浸透は浅く、理念を認識した実践に繋がっていない。	ホームは、地域との連携を含む独自の理念を持ち、ホーム内に掲示しています。管理者は、ホーム理念の職員への徹底を検討中です。	昨年は職員の異動が多かったため、全職員のホーム理念共有が、やや不十分と思われます。今後、日常業務やミーティング等を通して理念を理解し、理念に基づくケアサービスの実践を期待します。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の盆踊り大会に、一部の方ではあるが参加されたり、畑作りの際に近隣の方からアドバイスを受けたり、花の提供を受けたり、一部での関わりはあるものの、日常的な交流には至っていない。但し、法人全体では、所在地域の住民と交流を図る目的で、法人主催の行事を開催したり、老人クラブ等からの慰問や車イス清掃などのボランティア、地元中学校の訪問などによる交流を図っている。	ホーム周辺に一般住宅が少ないため、周辺住民との日常的交流は難しい状況ですが、利用者は地域行事へ参加したり、法人が開催する行事に住民の方々が参加しています。また、ボランティアや中学生の慰問などもあり、ホームは地域との交流を深めようと努力しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	そうした取り組みは行なわれていない。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動状況や外部評価、避難訓練、実地指導等の報告が中心であり、意見などを活かした活動に繋がっていない。町内会の行事予定をお聞きすることで、参加への参考にしている。また、会議の内容について、職員と共有できていない為、職員との共有を図り、サービスの向上に活かして行きたい。	会議は定期的で開催され、運営状況報告の他、災害対策への協力要請や運営についての意見交換が行われています。	会議には行政関係者の積極的参加を頂いていますが、その他の外部メンバーが少ないため、教育関係者、民生委員、町内会婦人部などのメンバー拡大を望みます。また、会議の必要性と内容について、ミーティングや議事録を読むなど全職員が共有し、利用者へのサービス向上に活かすことを期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市内のグループホーム連絡会の活動で、定期的に市町村担当者と意見交換する場を設けている。また、運営推進会議開催の連絡により、積極的な参加を頂き、顔見知りの関わりの中で、日頃からの連絡・協力関係が築けていると考える。	行政関係者が積極的に参加頂いている会議での意見交換や、管理者等による行政窓口への相談、行政担当者の来訪など、ホームと行政との協力関係が築かれています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践しているが、法的根拠による理解を深める為の学習の場などは設けられていない。	法人全体の組織として身体拘束防止委員会があり、マニュアルも整備されています。新人研修においても身体拘束に関する研修が行われています。玄関の施錠は、夜間のみでユニット間の施錠は有りません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人理事長が年度当初に、内部研修において、直接職員全員に周知している。また、新任職員研修においても周知している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の新人研修で学ぶ機会はあるが一部であり、全職員へ学ぶ場への参加提供が行えていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の支援のあり方などを説明すると共に、ご本人やご家族等の思いを聞くように努め、利用に対する不安を解消できるよう関わりに配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、ご家族の参加を頂いているが、運営に対する率直なご意見・要望は出されていない。また、利用者の参加実績は無いが、今後参加してもらいたいと思っている。運営推進会議へ参加されるご家族以外においても、面会時に意見・要望を聞いており、反映するように努めている。法人からは毎年、家族へのアンケート調査を行い、その結果をホーム内で閲覧可能としているが、外部者へ表せる機会としては、不十分と思われる。法人においては、苦情窓口を設置し、その手段について、入居時に説明を行ったり、掲示をしている。	利用者の様子は、家族来訪時やお便り（ハーモニー通信）で伝え、状況に応じて電話で連絡しています。家族からの意見等は、ホーム来訪時に聞いていますが、法人全体のアンケート調査で、ホームに対する要望等を把握しています。意見や要望等については日常の業務やミーティングで協議し、課題解決に努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	そのような機会は設けられていない。	職員からホーム運営に関する意見等を聞く機会を特に設けていませんが、日常業務の中でホーム長や管理者は把握し、反映させるように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として、人事考課制度を導入し、目標面接・考課測定を設けている。また、嘱託職員、パート職員に対しても年度末に自己評価、管理職による面接を行い、業務への反省、今後の目標設定を行っている。また、正規職員への登用制度を既に導入し、キャリアパス制度の整備を進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人によるスキルアップ研修や新規・中途採用職員への研修、隣接する協力施設と合同の内部研修の機会を設けているが、勤務体制的に十分な参加は図られていない。また、外部研修においても、職員配置等の問題もあり、全員の参加は出来ていないため、充分とは言えず、今後も勤務の調整により参加を図って行きたいと思っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会で交流する機会はあるが、参加できる職員の数に限りがあり、充分に出来ていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご家族・ご本人と面談の機会を持ち、本人の意向を受け止める努力をしている。入所後においても、関わりや声掛けの機会を必要に応じて持つように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族・本人と面談の機会を持ち、入所に至るまでの意向を聞く場を設けている。入居後も、面接に関わる職員以外においても、面会時に声を掛け、お話を聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態の連絡、対応の相談、実施など、サービス内容が変更する都度の家族との連携を図っている。(他事業所のサービス利用などに関しては、努力をしているが、その事実はない)		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑仕事や家事全般、季節行事のことなど、学ぶことや教えられることも多く、本人との会話の中から知識や知恵を引き出し、遊びや作業・生活に活かせるように取り組んでいる。教えを伺いながら作業に取り組んでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	話し合いの場を設け、関係性を築けている家族もいるが、固定化しており、関係性を深められない家族も多い。(家族の年齢や都合によることが多い) 可能な家族には、通院対応や付き添いを依頼している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人からの希望もなく、出来ていない。職員からの積極的な働きかけも少ないが、外出時に思い出のある場所へ行くなどの配慮はしている。	利用者の希望に応じて、馴染みの場所への訪問や募参り、電話連絡の手伝い、知人が来訪しやすい雰囲気作りなどの支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係性の把握が出来ており、テーブルの配置や外出時の組み合わせ、日常の関わりなどなど、無理強いの無い範囲で職員が配慮し、利用者同士の関わり合いが円滑になるよう、職員がクッションとなり支えあえるように勤めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族が、ホームにお寄り頂き、お話をする機会もあり、退居後においても関係性を大切にしていきたいと考えている。また、退居時には、お困りの際には、ご相談していただけるよう、声掛けを行なっている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族からお聞きする、入居前の生活状況から、出来る限りご本人の希望に沿うように職員間で話し合ったり、ご本人の様子から、生活スタイルの把握に努め、困難な場合も、本人本位に努めるよう心掛けているが、場合によってはホームの都合に合わせてしまうこともある。	思いや意向は、家族からの情報や日常の様子で把握するようにしていますが、困難な場合は、職員間の相談、ボランティアや実習生の協力などで把握するようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や生活の形態など、今までのご本人の暮らしてきた様子が分かるように把握に努めたり、随時、ご本人との会話やご家族との話の場で伺っているが、全ての把握にはいたっていないため、不十分と感じる。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子を細かく記録し、全職員が確認し、申し送りや職員間で伝達することにより、把握出来ていると感じる。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議において職員間で検討している。その上で、ご家族への説明・相談・同意を得てる。面会時の会話などから、ご家族の要望を把握し、計画に反映できるように努めている。	ケアプランは、モニタリングを繰り返しながら見直しを図り、カンファレンスで全職員の共有とされています。また、家族へ説明して了解を頂いています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録の記載や特記事項など、細かく記録し、情報の共有に努めている。記録を日々の関わりやプランの見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	充分できていない。協力施設のリハビリスタッフから、必要に応じ、アドバイスを貰うよう働きかけを行なうなど、柔軟に対応できるよう心掛けている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	充分な地域資源の活用には至っていないが、隣接する施設で行なわれている催しや習い事も、資源の一つとして参加を行なっている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時や特変時に関わらず、医療行為に関することは、相談・指示を受けながら支援に結び付けている。受診先の医療機関の希望を伺いながら対応し、その医療機関との関係構築を意識しながら、応対している。	医療機関による定期的訪問診療は実施していませんが、利用者の要望や身体状況に応じて、随時、協力医療機関やかかりつけ医への受診を支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時や特変時、日常の医療面に関することを、協力施設の看護師へ相談し、アドバイスを受け対応の参考にしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、治療・療養に役立つよう、病院への情報提供（連絡先・身体・認知面・行動・生活状況）を行っている。 また、入院期間の様子等を伺い、ホームに戻られた際に戸惑いがないように努めている。医師、家族、職員の三者での話し合いの場を設け、相談しながら行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階での話し合いは出来ていない。必要性が生じてきた段階において、方向性の話し合いを持ち、状態に応じ、事業所で出来ることの伝達や対応が難しい場合、その後の生活・療養の場に関する情報提供、関係機関への連絡・調整などの必要な支援を行っている。	利用者の重度化や終末期におけるホームの対応については、状態変化時に医療機関や関係機関と相談しながら、家族へ説明し、支援しています。	重度化や終末期に向けた指針は有りませんが、具体的な対応策を文章化して、入居時や早い段階で家族へ説明し、同意書を頂くことを期待します。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや内部研修の機会が設けられているが、実践力を身につけるために、繰り返しの訓練が必要と感じる。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている	年に2回、ハーモニーを出火場所と想定した、火災時の避難訓練を実施している。しかし、実践力を身につけるためには、繰り返しの訓練が必要と感じている。 また、法人単位での消防計画が作成されており、各施設の連絡や応援体制、自治体への連絡体制が体系化されている。	災害対策として、法人全体の訓練や連絡体制、消防計画などが整備されています。避難訓練は、夜間想定訓練を含めて、法人全体及びホームとして実施しており、運営推進会議において地域の方々の協力要請をしています。	法人全体として災害に対する対策が整備されていますが、今後は、飲料水、非常食、防寒具等、災害時における必要備品の用意を期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に心掛け、実践に努めているが、徹底されていない点もある。	日常のケアサービスや声かけなど、利用者の誇りやプライバシーを損なわないよう十分配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人へ問い掛け、希望や思いの確認、自己決定の促しを図り、ご自身の意思を尊重した関わりで努めているが、まだ不十分と感じている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切に、希望に添うように努めているが、その日の状況により、スタッフ側のペースで対応をしていることもあり、充分とはいえない。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	努めている。理美容に関しては、ご自分でカットされたり、ご家族が来て散髪されたり、ご家族の同行で行きつけの美容室に行かれるなど、それぞれの希望を尊重している。また、化粧品の購入への支援や、眉毛を描いたり、ピン止めで髪をまとめたりといった支援を、ご本人の希望や過ごし方などから個々に行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご自身の役割として、行なっていたり、反面、ストレスとならないよう配慮しつつ、その日の状態や能力に応じ、準備や片付け、食材の下ごしらえ等の対応を行なっている。また、畑で採れた野菜や季節のもの、食卓にお出しすることも、楽しみに繋げていただいていると感じる。	利用者の意欲や力量に応じて、簡単な調理や食事準備、後片付けを職員と一緒にしています。献立は、他施設の栄養士が作成したものを基にしながら、利用者の要望等も取り入れています。畑で収穫した食材も利用して調理し、職員と共に楽しく食事をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量の記録を付け、必要量の摂取が促されるように努めている。水分に関しては、一回量が多く負担にならないように、日に数回に分け、摂取できるように促している。食事においても、嗜好や体調に応じて提供したり、摂取に至らない原因を探りながら、試行を繰り返している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の能力に応じながら、声掛けや見守り、介助により実施しているが、ご自身で行なわれる方を含め、もう少し小まめな対応を心掛けたい。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で、排泄パターンを把握し、トイレへの声掛けや誘導を実施している。また、トイレへの促しが、スムーズに行かない方への声掛けなども工夫している。	利用者一人ひとりの排泄チェック表を作成し、声かけなどの誘導をして、排泄の自立支援に努めています。このため、リハビリパンツの使用減やトイレでの排泄など、効果が表れています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取への促しや、ヨーグルトドリンクや乳製品など摂取内容の工夫、毎朝ラジオ体操や散歩により身体を動かす機会をつくるなど、排便の促しに繋がるよう働きかけている。困難な場合は、医師へ相談し、下剤処方への対応を行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その人のペースに合わせて誘い掛けの工夫、タイミングに合わせて入浴していただいている。望まない時には無理強いしない。	入浴は、週2～3回を原則として、午後の時間帯に実施しています。入浴を拒む利用者には、時間をずらしたり、家族の協力を得るなど、無理をしないよう配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活スタイルを把握し、安心し、入眠していただいていると感じている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の把握に努めてはいるが、全てとは言えない。薬の情報提供書を個人ファイルに残し、確認が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花札、菜園、買い物、ドライブ、外食、歌など、一人一人の楽しみにごとの把握し、生活していただけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族や地域の方との協力は出来ていないが、ご本人の希望には添えるよう努力している。売店での買い物、散歩などに出掛けている。葬儀への出席も、ご家族と相談しながら、参列への支援を行なった。	日常的には、周辺の散歩や老健の売店に買い物に出かけています。また、老健の音楽療法や書道教室などにも参加しています。車両を利用して花見や食事会等も実施しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる利用者には所持してもらい、買い物へ出かけた際に自由に使えるように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	対応できる利用者には、自由に電話を使用していただき、希望があれば都度、電話や手紙の支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に気配るように努めており、採光のある場所に畳や座椅子を置いたり、玄関、ホールなどに、季節を感じて頂ける飾りつけを取り入れ、心地よく生活出来るよう工夫している。 玄関ホールの椅子やソファを置き、外の様子を見たり 夏はテラスに椅子を置き、外の空気を感じられるように工夫している。	玄関や居間兼食堂は、ガラス部分が多いため、明るく、見通しも良く、利用者は外の景色を楽しんでいます。ゆったりとした居間には、移動式畳スペースがあつて多目的に使用され、また、トイレその他のスペースも清掃に努め、清潔感がある中、利用者はゆったりと寛ぎながら過ごしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やテラス前にソファを配置するなどの工夫をし、食卓テーブルを含め、一人一人が過ごしやすい場所を決められており、共用スペースをそれぞれが思い思いに活用されていると感じる。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具などを持ち込み頂き、ご家族とご本人の話し合いの下で、タンスやテーブルを配置され、それぞれの好み、馴染みに合わせた生活空間を作ってもらっている。	居室は十分な広さがあり、クローゼットや洗面台、ベッドが備え付けられて、生活に便利な室内です。利用者は好みの調度品等を自由に持ち込み、居心地良く暮らしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、手洗い場、自室が分かるように、ネームなど目印を付けるなどの工夫を行っている。また、トイレや共用スペースに手すりを設け、個々の能力に応じ、必要な方には、自室内に手すりを設置し、自身による動作が促せるよう配慮している。			